

16 一〇一年前のドイツ留學生の絵葉書

— プレスラウの今昔比較

石田¹⁾ 純郎・小田²⁾ 皓二

昨年の医史学会で小田は「明治期ドイツ留學生の絵葉書」と題した講演を行ない、一九〇〇年から二年間、ドイツに留学した坂田快太郎（一八六五～一九三一、岡山医学専門学校教授）が、現地で日本人の学友から受け取った四〇〇枚の絵葉書を、その内容に重点をおいて紹介した。

その中からプレスラウ（現在のポーランドのヴロツワフ）の絵葉書を選び出し、石田がそれを持って現地を〇二年一月に訪問した。同一の、あるいは類似した写真・絵を一種と数えると、全部で三三種のプレスラウの絵葉書があるが、その内、九種は静物であり、風景の絵葉書は二種である。それに平井毓太郎伝収載の一枚の写真（プレスラウ大学小児科クリニック）を加え、二五種の風景写真・絵の今昔を検討した。

その結果、現存が確認され現状が撮影できたもの（部分的現存を含む）一六種（六四％）、消滅が確認されたもの三種（二二％）、特定できなかったが遠隔地のため訪問できず現状の確認ができなかったもの二種（八％）、不明四種（二六％）で、合計二二種（八四％）の現存の様子が把握できた。

一〇一年前の写真の場所が、限られた日数の調査にもかかわらず、八四％も特定できたのは、驚異的に高い比率であると思う。まして、プレスラウは一九四五年の連合軍の空爆により中心部の大建造物の多くが大破したことを考えると、なおさらである。ヨーロッパにおいては、教会や公的建物は従前の様式どおりに再建するのが原則で、そのため、大破した建物も確認可能であった。その中には大学医学部関係の施設もいくつか含まれる。

ヴロツワフの現在の人口は五〇万人余、町の歴史は九世紀まで遡れるが、一六世紀以後ハプスブルク家、プロイセン、ドイツが領有し、坂田快太郎の留学時にはドイツの大学町で、戦後ポーランド領になった。

ヴロツワフ大学は一四〇九年まで遡れる。医学部は一七三〇年に設置され、戦前、多数の日本人が留学した。

ヴロツワフ大学本部、外科病棟、精神科病棟、小児科病棟、市役所、各種の教会、駅、動物園、市街風景の今昔の写真を、比較・紹介する。公的建造物、すなわち大学本部、外科病棟、精神科病棟、小児科病棟、市役所、各種の教会、駅の大半は、現在も一〇一年前と同じ姿で建っている。しかし、民間建造物の大半は、この大戦時の空爆の結果大破し、その姿が一〇一年前とまったく異なり、姿を消した街並みも多い。

プレスラウ関係の絵葉書の消印は一九〇〇年一〇月二四日から〇一年五月二九日の日付である。プレスラウ市内、あるいはベルリンから出した千葉楢次郎、筒井八百珠、松生、馬杉篤彦、長野純蔵、鈴木、屯田、大島らよりの絵葉書である。

小田が文面を解読した。その内容であるが、勉強、ドクトル・メデイチーネ試験、学会についてのものもあるが、それよりもむしろ、生活、観劇、食事、飲酒、女性、セックス、情人、罹病などの、若き日本人留学生たちの青春の生々しい喜びと悩みが記されているものが多い。

(新見公立短期大学、¹⁾医療法人おだうじ会 小田病院)